

(第3種郵便物認可)

# 神戸市外大が医療通訳講座

神戸市外国語大(同市、センターFACIL)は、定員15人程度。両大西区は9月25日から来「アンル」が中心となつて、年1月まで、神戸市看護で医療通訳派遣に取り組み、共同研究を進めており、大(同)と協力して、学び、2011年度には同生対象の講座「医療通訳」市関連の3病院が通訳報酬・コーディネーター入 酬の一部を負担する仕組みを初めて開く。在 みを開始。一方で医療通 外国人の増加を受け、そ 訳の人材養成は、FACILの医療を支える人材育成 成につなげたいという。(同市中央区)が研修会



船山伸也学長

講師は両大の教員を含む計14人を予定。医療通訳研究会の村松紀子代表に加え、実際に医療通訳を活用する「りんくう総合医療センター」(神戸市東灘区)のNPO法人「多言語が共同で受講でき、週1(大阪府泉佐野市)、医

## 来月から 学生対象、看護大と連携

療通訳養成を進める大阪大や愛知県立大からも招く。患者、医療従事者それぞれの役割を想定した実践的な演習もある。言語は英語が中心の予定だが、希望によっては中国語やスペイン語にも対応。講座は試験的な実施で、受講の希望者数などを見て、来年度以降の対応を考へる。自身も講師を務める市外国語大の船山伸也学長は「今後も日外国人の支援として、医療通訳制度に貢献できるかを検討していきたい」と話。(金井恒幸)

# 県立大大学院

## 医工連携で 機器開発へ

兵庫県立大大学院工学研究科の医療健康情報技術研究センター(姫路市書写)が、工学系の技術を医療機器開発につなげるための研究を進めている。医療機関や健康機器メーカーと協力し、不妊症の診断機器などの実用化を目指す。

工学系の技術を生かした医療機器開発について話す畑豊センター長



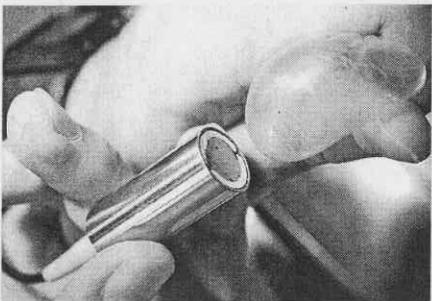
このほか、歩く際の地 ター長は「工学系の技術面への圧力や歩幅などが医学に利用できる可能 「歩行年齢」を割り出し、性はまだまだあと思つすマ体の動きと心拍数をし、実現すれば社会への胸に付けたセンサーで把 貢献が目に見える。握し、歩行中や安静中 今後工学系ならではの活動自動的に推 発想を生かし、医療機器定するといったシステ や健康機器の開発を進め るも研究中だ。同センターの畑豊セン

神戸新聞文化生活部・医療担当 FAX 078.360.5512 iryou@kobe-np.co.jp

同センターは2011年に設置。工学系の情報処理技術を生かし、磁気共鳴画像装置(MRI)やコンピュータ断層撮影装置(CT)といった機器の新たな活用方法を探るなど、医学と工学の連携で研究する。既に、シート上に寝転ぶだけでストレスの度合いが測れる装置などを実用化。姫路市医師会と共同研究などに向けた連携協定も結んでいる。

## 不妊症診断など臨床目指す

子が見つかる確率は半分 音波を使った脳画像装置にも似たようなとされる。そこで超音波で一定の太さがあり、精子がいる可能性が高い精細管があるかどうかや、太い精細管がどこにあるのかを術前に診断できるようにするが、研究の目的。これまで、ゴムチューブ内にナイロン製の糸を入れた模擬実験を経て、牛の睾丸でも実験を重ね、高い精度で太さが見分けられることを確認した。今後は臨床応用を目指す。また、救急車内で脳梗塞の患者を早期に診断できる可能性がある。病気の可能性があると判断する。



超音波による精細管診断の実験のイメージ。ゴムチューブの中にナイロン製の糸を入れ、その太さを調べる＝いずれも県立大大学院工学研究科

高齢者の肌には深いしわや、女約900人を無作為にケルみなどができるのは、単なる ーフ分けし、1992年から老化現象ではなく、紫外線を 4年間追跡した。全体の半数浴び続けた影響による「光老 には、顔、首、両腕、両手に化」と呼ばれる。この光老化 毎朝日焼け止めを塗るよう指の進行を抑えるには、日焼け 示。汗をかいたり数時間以上止めを、必要を感じた時だけ 日光を浴びたりした後には塗でなく毎日塗るのが有効だと 直してもらった。残り半数

## 「肌の老化防止に効果」

するオーストラリアの研究が は、自分が必要と感じた時だ米医学誌に掲載された。意外 け日焼け止めを使った。使用なことに、日焼け止めが光老 した日焼け止めは、地表への化を遅らせることができると 到達量が多いA波(UVA) 厳密な試験で示したのは初めと、有害作用がより強いB波(UVB)の両方を防ぐク

研究は、豪クイーンズランブ。 光老化の進み具合は、シリ

## 日焼け止め、いつ塗るの? 「毎日でしょう!」

コロン剤を使う 手の甲のしわや 詳細に型取りし、段階で評価し、終了時にこれだ を数値で比較し、817人、終了 の型が採取でき 各グループの スクを算出して 判断で日焼け止 ループは、4年 進むリスクが明 ていたが、「毎 ループは4年後 スク上昇は日焼 け止め使用クは24%低下 になった。

## 情報

【ゆずりは明石行事】ゆずりは明石は、がん患者らによる同市拠点の自助グループ。事務局の草野さん☎078-911-6761。詳細は次の通り。  
《例会》9月1日13時半～16時、明石市東仲ノ町のアスピア明石北館8階、市生涯学習センター(JR・山陽明石駅から東へ徒歩約3分)。会員3人が自らのがん経験を発表する。一般700円。予約不要。

ロンで、治療や生活の悩みなどについて語り合う。無料。予約不要。  
《明石楽しもう会》9月9日10～13時、明石市相生町2の市立保健センター3階(JR・山陽明石駅から南東へ徒歩約8分)。免疫力を向上させる食事について、管理栄養士の福元雅代さんによる講話と実習。材料費を含め500円。要予約で先着25人。8月末締め切り。  
《がん相談》24日13～16時、明石市立保健センター1階。看護師や保健師、がん経験者が、がんについての相談に

◆効率的な新薬開発を目指す 効率的な良い新薬開発を目指し、国立がん研究センターと産業技術総合研究所創薬分子プロファイリングセンターが、連携契約を結んだ。5年以内複数の薬を臨床研究にまで持ち込みたいとしている。従来は多量の物質を合成し、しらみつぶしに効果を調べる方法が主流だったが、成功率は低く、時間もかかっていた。両センターは今後、薬が効いた副作用が出たりする仕組みを分子レベルで解析、効く薬の候補をうまく絞り込むことで、開発の効率化を図る。販売中の薬の効人への適応拡大や、開発が途中で中止になった薬の改良の可能性を探るほか、新しい薬の開発にも挑む。

6階の同センター(JR大阪駅から南東へ徒歩約10分)。10日は大学院文学研究科の土屋貴志准教授が「その薬、安全ですか?—イレイッサ薬害からみえること」、25日は大学院生活科学研究科の小島明子准教授が「生活習慣病を予防するためには、どのような食生活がよいのか」とそれぞれ題して話す。対象は16歳以上。受講料各500円。同大学公開講座のホームページから、またはファクス(06-6344-5524)などで講座名と住所、氏名(フリガナ)、性別を記入し、封筒に入れて、〒650-0007神戸市中央区南長狭3-1-10 神戸大学医学部臨床研究棟4階A講義室(市営地下鉄大倉山駅から北西へ徒歩約5分)。テーマは「再生医学でつくる医療の未来」。人工多能性幹細胞(iPS細胞)の臨床応用の展望などについて、専門の教員や研究者らが分かりやすく解説。受講料は5日間で計6200円。申し込みは8月23日から、所定の申込書を受け付ける。先着100人で9